

令和5年（2023年）度行政評価シート【個表】

令和 5 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	文化財課長 鈴木 庸一郎	
教育-42	文化財公開活用事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	文化財課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保護

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市内に所在する文化財を公開し、文化財に魅力を発信することで、郷土への理解及び文化財への愛着を深める。
効果	郷土への理解及び文化財への愛着を深めることにより、文化財を確実に後世へ伝えていく。

2 令和4年(2022年)度を実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 遺跡発掘調査速報展、遺跡調査研究発表会、発掘調査現地説明会、地下道ギャラリー50でのパネル展示を実施し、鎌倉の埋蔵文化財26を刊行した。 第51回郷土芸能大会を実施した。 鎌倉の文化財第24集を刊行し、指定文化財標柱を3箇所を設置した。
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和4年度		令和5年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	出土文化財公開活用事業	講師謝礼 展示関連消耗品	遺跡発掘調査速報展 来場者(人)	527 /	200	400	263.50%
				326 /	441	1,220	
02	郷土芸能大会開催事業	郷土芸能大会開催関連業務委託	来場者(人)	205 /	300	300	68.33%
				208 /	572	568	
03	文化財公開活用事業	啓発冊子印刷製本費 文化財標柱等設置業務委託	文化財めぐり参加者	0 /	30	30	0%
				832 /	1,069	1,186	
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源 内訳	国県支出金	117 /	172	260	
			地方債	0 /	0	0	
			その他特定財源	27 /	30	30	
			一般財源	1,222 /	1,880	2,684	
			事業費の合計(千円)	1,366 /	2,082	2,974	
			人件費(千円)		9,875	11,690	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.0	1.0	1.3	1.5		
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0		

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	出土文化財公開活用事業	遺跡調査速報展等は、平成30年以降の鎌倉生涯学習センターでの開催ということもあり、目標以上の来場者数を達成することができた。	展示や発表会を通じて市民等へ埋蔵文化財への理解が深まることで、歴史的遺産と共生するまちづくりに資する事業であるため、妥当である。	より多くの人に出土品を直に見ていただくため、速報展等の開催、展示手法のさらなる工夫が必要である。
02	郷土芸能大会開催事業	郷土芸能大会は令和元年度以来の開催であったが、コロナ下のため広報を限定したこともあり、目標の来場者数を達成することはできなかった。	地域で引き継がれてきた郷土芸能の保存や継承に繋がるもので、歴史的遺産と共生するまちづくりに資する事業であるため、妥当である。	多くの人に鎌倉固有の郷土芸能を知り、親しんでいただく機会を確保するため、開催手法の工夫が必要である。
03	文化財公開活用事業	文化財めぐりは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施しなかったため未達となった。	地域の文化財への理解につながり、歴史的遺産と共生するまちづくりに資する事業であるため、妥当である。	市民等により効果的に文化財を知り、親しんでいただくため、開催手法の検討が必要である。
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している 協働実施済の場合のパートナー 鎌倉市郷土芸能保存協会 NPO法人鎌倉考古学研究所

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
<ul style="list-style-type: none"> ・出土品のさらなる活用のため、新たな展示場所の確保と魅力的な展示の工夫をしていく必要がある。 ・郷土芸能大会の開催方法について検討し、数多くの人に郷土芸能に親しんでもらう機会増やす必要がある。 ・文化財及び関連業務のさらなる周知、啓発を図り、文化財保護の機運を醸成していく必要がある。 					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	郷土芸能大会の来場者数(人)						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
より多くの市民等が郷土芸能を知り、理解を深める機会であるため。	目標値	300	300	300	300	300	300	
	実績値	0.0	0.0	205				
	達成率	0.0%	0.0%	68.3%				

指標(単位)	遺跡調査速報展来場者数(人)						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
より多くの市民等が埋蔵文化財を知り、理解を深める機会であるため。	目標値	200	200	200	200	200	200	
	実績値	0.0	0.0	527				
	達成率	0.0%	0.0%	263.5%				

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--